

教育連携室の1年、そしてこれから



教育連携室次長

奥田 秀紀

2017年4月、第4次中期計画に基づく教育連携の強化を実現するため、富岡学園長をトップとする学園のタスクフォースとして教育連携室が設置された。教育連携室のスタート年となったこの一年を振り返るとともに、次年度に向けた新たな構想を示す。

一 本年度の取組

第4次中期計画「重点目標」の具現化

第4次中期計画の重点目標として、「教育連携の強化」を掲げ、4月「教育連携小中管理職連絡会議」を立ち上げた。これまでに9回の会議を開催し、内部進学推薦制度の優位性・透明性・公正性を確保するため、判定基準やクラス別人数等について会議決定を行い、帝塚山小学校から同中学校へ希望する全員の入学が実現した年度となった。また、新たに、「教育連携学部・学科長ヒアリング」を実施し、大学各学部学科の現状や課題、その解決に向けての構想を意見聴取した。さらに、昨年から実施の法人ヒアリングを「教育連携室ヒアリング」に改称。学校長、園長を対象に学園内の教育連携を主なテーマとし、具体的

な教育連携の進展に繋げる場となった。

教職支援センターの開設・運営

「採用試験合格」から「園・学校の現場」までをスローガンに教育支援センターを開設した。教職支援センターは、教育連携室設置と同時に、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を目指す学生の希望を実現するため、現代生活学部こども学科に開設。4年生にとってはまさに直前対策であったが、公立小学校へ延べ14名、公立幼保に延べ20名が合格した。また、帝塚山幼稚園に1名が見事合格し、他の私立幼稚園・保育園に32名が合格した。その他、こども学科から小学校教諭合格を目指し講師として活躍する学生や一般企業に就職する学生が卒業する。こうして、4月から教員・保育士、社会人として巣立っていく学生のために、『FIRST STEP 教員・保育士、社会人として』を、スタートブックとして発行する。

戦略的広報誌の発行

2017年7月に装いを新たにした総合学園の広報誌を創刊した。愛称が「T・time」となった第1号を12月、第2号を3月に発行。「T・time」は、在校生、保護者、卒業生、教職員、学園関係者の方々に帝塚山学園の現状をお伝えし、学園をPRするため、年3回(7月・12月・3月)発行する。

二 次年度に向けて

学園の重点目標である「教育連携の強化」の実現は、緊急性の高い課題の一つであり学園創立80周年に向けて解決すべき喫緊の課題である。

学園内の内部連携については、各校種間の相互理解を深め、総合学園の強みが発揮していける取組を具体化していく。また、教職支援センターにおいては、現在、3年生約60名が学んでいるが、採用試験合格実績を上げるとともに、学校現場で即戦力となり得る力を身に付けていけるよう、土曜日開講予定の「英語力向上講座」への参加も含め、次代を担う教員の養成に向けた取組をサポートしていく。

さらに、学園の広報をトータルブランディングし、学園HPのリニューアル(スマホ対応)、ニュースやトピックスなどの日々の情報発信、駅等の広告看板など、対外的広報戦略の企画など、戦略ある広報に努めていく。

2歳児教育から大学院までを有する総合学園としての強みを生かし、幅広い教育連携の取組を一層進め、学園教育のさらなる充実を目指すしていきたい。



教育連携室メンバー
中村 誠
富江 朋子
松本まどか
(写真右から)
帝塚山小学校 校長 池田 節
教諭 辰巳 壽之
帝塚山幼稚園 園長 塚本 真紀